看護しばらき

No.111 2016年1月25日



CONTENTS

新年のご挨拶 P2 ~ 3	委員会活動紹介 P18 ~ 19
申年~年男・年女あつまれ~ P4 ~ 5	*看護師職能委員 <mark>会</mark>
災害看護活動を通してのレポート P6 ~ 11	*教育委員会
平成27年度実習指導者講習会 P12 ~ 13	関東東北豪雨災害被災地に対する
平成27年度実習指導者講習会	義援金の贈呈について P19
(特定分野)P14	平成28年度改選役員、推薦委員及び平成
平成27年度看護管理者等研修 P15	29年度日本看護協会代議員·予備代議員
平成27年度地区意見交換会報告 P16	への立候補について·理事会報告 P20
平成28年度新規入会の皆様に	
お知らせいたします P17	

会員数(平成27年12月15日現在) 平成27年度会員加入目標数:13,700名

合計 13,763人 保健師364人 助産師480人 看護師11,732人 准看護師1,187人

新年のご挨拶



公益社団法人 茨城県看護協会 会 長 相 川 三保子

かけがいのないいのち・くらし・尊厳を まもり支えるために

年頭にあたりごあいさつ申し上げます。 新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、穏やかに、お健やかに新しい年を迎えられたことと お慶び申し上げます。一方、職場や訪問先等で新年と仕事始めを同時に お迎えの方々、こころより敬意と慰労を申し上げます。

昨年の常総地域の豪雨災害から早4か月が過ぎようとしております。 まだまだ復旧、復興までには時間を要するかもしれません。一日も早い 我が家での生活が皆様に訪れますことをお祈り申し上げます。

平成27年、報告されました茨城県の看護職(保健師・助産師・看護師・ 准看護師)の就業者数は、29,470名で人口10万対比では全国42位と低 位を占めております。

今、医療・看護を取り巻く環境は大きく変化し、少子超高齢社会が急 速に進展する中で、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続し、 人生の最期を迎えることが出来る環境を整備していく中で、社会が看護 職に求める役割期待も多くなっております。特に訪問看護ステーション は地域に密着し、暮らしの場で24時間365日ケアを継続する看護の拠点 として重要な役割を担っています。しかし現在、訪問看護に従事する看 護職は630名であり、全就業者の約2.1%にすぎません。2025年を見据え た人材確保は、喫緊の課題となっております。

一昨年公布された医療介護総合確保推進法を受け、27年度は『 少子 超高齢社会に対応する人材育成』『 労働環境の改善と充実』『 超高齢 社会に向けた在宅ケアの推進』の3つを事業方針とし、4つの重点事業に 取り組んでおります。

中でも、昨年10月より離職した看護職の届出制度がスタートし、切れ 目のない就業・キャリア支援を実施しておりますので、是非茨城県ナー スセンターにお届け下さい。

日本看護協会は、地域包括ケア時代に看護の将来ビジョンの副題とし て、「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を掲げております。本 会もそれを踏襲し、少子超高齢社会を看護職としてどう支えていけるか その一翼を担えるよう、13.745名の会員お一人おひとりの力を結集し、 他団体、多職種の方々と連携を強化しながら、しっかり課題に取り組ん で参りたいと考えております。

皆様の一層のご支援、ご協力を頂きますよう、よろしくお願い申し上 げます。

本年が皆様にとって良き年でありますようにお祈り申し上げ、年頭の あいさつといたします。

もっと、もっと "看護の輪を広げよう''



専務理事 山本 かほる

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には日頃から協会活動にご協力を賜りありがとうございます。

昨年は、協会にとりまして大きな試練の年となりました。執行部体制も一新し新たな目標に向 かい事業を進めていたところに、9月の豪雨による大規模災害が発生しました。私達にとりまし ても被災県としてこの難局を乗り越えるため会員始め役職員一同があらゆる努力をいたしました。 被災地では復興半ばではありますが、本会におきましてはこの水害を教訓に検証を行い新たな体 制整備に着手してまいります。さらに、会員一人ひとりの力を結集し、看護職能団体として強み を生かし会員の皆様と共に組織力を強化してまいります。

今年は難をとりさる年にいたしましょう! 本年もどうぞよろしくお願いいたします。



看護職には戻るべきところがある

常任理事 白川 洋子

新年あけましておめでとうございます。

2015年 10月より「とどけるん」がスタートしました。努力義務化ではありますが、徐々に届け る方が増えております。離職時に届けることにより、切れ目のない就業支援を行うこと、また離 職者はニーズに即したキャリア支援を受けることができる機会が増えたことになります。往々に して 2025 年問題と語られることが多いのですが、それぞれの看護職にとっては自分のキャリアを 活かすことができるチャンスが誰にもあることを表していることではないでしょうか。そういう 意味では「離職時にこそチャンス」と言っても過言ではありません。

今年度も一人ひとりの看護職が前を見て進んでいけるよう私にできることを最大限に発揮して いく所存であります。本年も宜しくお願いいたします。

"わかりやすく参加しやすい研修"を目指します



常任理事 大槻 解子

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支である申年の「申」(さる、しん)は「呻」(しん、うめく)の意味で果実が成熟して固まっ ていく状態とありました。

この申の意味に習って、教育研修事業の充実を目指して平成 28 年度はこれまでの研修を継続し ながらも新たな視点に立って見直しをしていきます。

昨年の地区意見交換会では貴重なご意見をたくさん頂きました。会員の皆様の声を真摯に受け とめながら皆様に「この研修に参加してみよう!!」と思っていただけるように努力してまいり ます。4月には、会員お一人おひとりのお手元に「平成28年度教育計画」一覧をお届けいたします。 多くの会員の皆様が研修に参加できれば幸いです。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

~年男・年女あつまれ~

申年生まれの方

磨けば磨くほど光る天性を持っています。

先見の眼や才能があり器用で、人の機嫌を鋭く読み取る才能があり、好奇心があり行動も 敏速です。ただ、持久力が無いので、気分にまかせて怠けたり転職を繰り返したりすると、 折角の天性も発揮されなくなるので気を付けましょう。

次の年女の時に『いい年月を過ご して来たなぁ』と思えるよう。

組んでいきたいです。



いきたいです。

かって、一段一段しっかり登って

水戸赤十字病院 早苗 戸井田

切に、様々なことに前向きに取り 新 新 たな気持ちでい たな気持ちで一日一日を大

ざす目標ができたので、目標に向 4年目を迎えます。 自分の中でめ 呼吸器病棟に勤務し、今年で

霞ヶ浦医療センター 沼尻

を迎え、これからのおまけの人生 しく働いてきました。 2月に定年 人生の半分以上を看護師として楽 『新年の抱負』 健 康に恵まれ大病もせずに、



の生き方を思案中です。

筑波メディカルセンター病院 小野瀬 俊子

新年の抱負

仕事とプライベートを充実さ 笑顔の絶えない一年にして

いきたいです。2016年はさら



取手北相馬保健医療センター 医師会病院

しのぶ 藍原

新しい目標をめざして』

よろしくお願い致します。

に



『新年の抱負』 さんの先輩方に支えられ、多くの 昨年から社会人となり、たく ことを学ぶことができました。 未 熟な部分が多いですが、努力を怠 ます。

らずに、成長していきたいと思い



聖麗メモリアル病院 皆川 亮

| 新年の抱負 ます。日々赤ちゃんたちの成長を (今) 年で入職して3年目になり

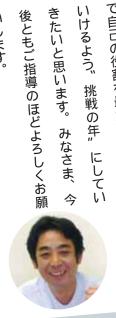
成長していきたいです。 熟ですが、初心と向上心を忘れず 見るのが楽しいです。 まだまだ未

> 県立こども病院 川上涼奈



\neg 挑戦の年

ざいます。今年は、3月1日に新 病院がオープンしますが、新天地 新年明けましておめでとうご で自己の役割を最大限に発揮して



総合病院土浦協同病院 勝明 大槻

申年の有名人

男性

高橋 秀樹、大沢 たかお、桑田 佳祐、妻夫木 聡、桐谷 健太 女性

いします。

広末 涼子、松下 由紀、剛力 彩芽、竹内 結子、トリンドル玲奈

災害看護活動を通してのレポート」

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害に係る災害看護活動にご協力いただき、ありがとうござい ました。今回、避難所や介護施設、被災病院、患者受け入れ病院等の災害看護活動にご協力いた だきました看護職の皆様の声をお届けいたします。

茨城県看護協会災害対策本部

茨城県看護協会副会長(災害支援担当) 芳賀百合子



『災害支援に向けた支援者の団結力に感謝』

この度の関東・東北豪雨災害により被災されました地域住民の皆さまには、心よりお 見舞い申し上げます。

偶然にも、今回の水害で中止になった茨城県救急医学会でば 東日本大震災からの復興 できたこと、できなかったこと」と題したシンポジウムが予定されていました。そのシ ンポジウムの準備中に、看護協会会長から災害対策本部設置の一報がありました。早速、

対策本部に駆けつけ、災害支援ナースとボランティア派遣の手配に関する支援をさせていただきました。慣 れない作業においては、改訂版災害支援マニュアル」が大変役立ちました。1都6県の災害支援ナースのご 支援、県内各施設の積極的なご協力、全国各地の看護協会や各団体、業者などからのお見舞いなど多くの 方々のご支援をいただきました。また、情報不足や情報錯綜のなかで看護協会の役職員が奔走する姿は、 力強く頼もしいものでした。あらためて、ご支援・ご協力いただきました皆さまに、深く感謝申し上げます。

また、国内はもとより海外においても自然災害・人為的災害が発生し、感染症やテロの脅威も災害リス クとして身近に存在しております。発災前のリスクマネジメント、発災後のクライシスマネジメントに対 応するためには、マニュアルの整備、人材育成、行政や四師会と日本看護協会と連携したレジリエンスの 高い茨城県看護協会にしていくことが課題であると思います。

被災地域の皆さまが安心して生活できる環境復興にはまだ時間を要し、多大なご苦労とご心痛が推察さ れます。会員の皆様の力を結集して継続支援をしていきたいと思います。

災害看護活動にご協力いただいた看護職の皆様の声

総合病院土浦協同病院

片倉 幸子

『被災地支援で感じたこと』



今回、避難所の一つである石下総合体育館で10月上旬に当直勤務をさせていただき ました。豪雨災害から約3週間が経過しており、支援物資やライフライン、看護活動に 必要な物品等は最低限整備されていました。日直者から要支援者等の情報提供を受けラ ウンドしたところ、被災した状況や現在の自宅の状況を克明に話される方、今後の生活 について不安を訴える方などがおり、身体面より精神面のケアが必要であると感じまし た。しかし、体調不良者の対応等のため、傾聴することもないままになってしまい悔や

まれました。避難所における支援活動として感染予防など衛生面の管理、安全対策、環境面の管理と共に 被災者の心のキズのケア、集団生活における精神面のケアが重要と言われていますが、それらを今回の支 援活動を通して再認識することができました。現在も支援を必要とされている方々が沢山いらっしゃいま す。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに1日も早い復興をお祈り申し上げます。

県西総合病院

小泉 美幸



『災害支援ナースとして出来る事』

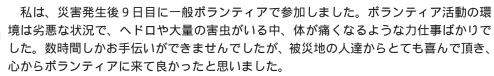
災害支援ナースに登録後初めての支援活動でもあり、何ができるかと不安と緊張のな か、福祉施設の夜間支援を2名で担当しました。発災後約2週間が経過した避難所での 最初の印象は、家族以外との共同生活や不自由な生活環境など、慣れない避難生活にス トレスを感じているようでした。そこで、健康チェックといった直接的な看護ケアだけ でなく傾聴に重視をおき、相談や対応などの支援を行いました。時間の経過と共に被災

者のニーズも変化していると感じられました。また、高血圧などの慢性疾患に罹患している方も多く、適 切な医療・看護の提供、感染予防などの衛生面の管理、安全対策などの環境面の管理、被災者の自立を支 援するなど、多面的な対応が重要であると感じました。今回の活動を通して多種多様な支援体制があることなど私自身の更なる知識の向上が必要と痛感しました。復興に向かって進んでいる被災地の方々の心身の健康を心から願っております。

友愛記念病院

臼倉 由貴枝





その後、10月6日~7日、常総市へ災害看護師として支援に参加しました。活動中、被災者の方々が次々とご自分の体験を話してくださいました。その中でも印象的だったのが、ダンボールのベッドから手招きをする一人の高齢者の方ですが、自分が末期がんであることや腰まで水につかり、あきらめていたところを救助されたと語ってくれました。「一度はあきらめた命でも助けられた命なので、また明日からがんばらんとバチが当たる。ありがとう。」としわがれた声で話し、手を握ってくれたことがとても心に残っています。今回の災害看護活動に参加したことで、たとえ小さな一歩でも被災者の方を助けたいと手を差し伸べるその一歩を踏み出す勇気が必要であること。そして、私と同じように思う人が増えれば一人の力は小さくても集まれば大きな力となり、もっと沢山の人達を支援することができると感じました。災害地の一日も早い復興を願っています。

アイビークリニック

永井 美由紀





当院へ2拠点4名の災害支援要請を受けました。私は、施設の機能全体が他施設の一角に避難した施設内現場を担当させて頂きました。ライフラインも整っているという情報から衛生面では問題はないと思い現地に着くと、利用者様の生活環境が変化する事で、安全確保や、褥瘡対策、精神的フォローなどの必要性がありマンパワー不足状態を感じました。また、備品が不充分な状態でのケアや管理など、介護避難現場の大変さを目の

当たりにし、家族や地域との関わり、職種間の連携を通じた貴重な体験が出来ました。管理者が携帯電話を多数持ちながら臨んでいたのも印象的でした。

全員がはじめての派遣であり不安が多いなか、現場の暖かい受け入れにより活動する事が出来ました。 今回の学びと3.11の経験を活かし、被災者の気持ちに寄り添えるよう、日頃より研鑽し備えていきたい と思います。

龍ヶ崎済生会病院

岸理子



今回、茨城県災害支援ナースとして、9月11日から13日の3日間2名で総合守谷第一病院へ行き、9月20日から21日(夜勤)の2日間は、千葉県看護協会から派遣された災害支援ナースと2名でつくばみらい市総合運動公園での支援活動を行いました。総合守谷第一病院では、1日目、救急外来において被災病院から大型バスに乗り、搬送されてきた患者の受け入れ、搬送されてきた患者の病棟への搬送や救急外来での外来患者対応を行いました。2日目・3日目は、病棟での清潔ケア・オムツ交換・食事介助などの病棟業務を行いました。つくばみらい市総合運動公園では、被災者避難所において、

救護所での処置・健康相談・避難所内巡回などの支援活動を行いました。今回、災害支援ナースとしての活動を通して感じたことは、避難者への精神面へのケアの必要性と自身が災害支援ナースであることを自覚し、常日頃から備えていなければならないことを強く感じました。

東京医科大学茨城医療センター

内海 優哉

『初めて災害支援へ参加して』



私の住んでいる町から程近い場所での災害であったため、看護師として少しでも地域に貢献したいという気持ちから、率先して災害看護活動に関わらせていただきました。災害発生から約1か月経過していましたが、約90人の被災者の方々が未だに避難所での生活を余儀なくされていました。避難所では高齢の方が多く、慢性疾患を患い定期的に通院されている方、多くの種類の内服薬を服用中のため、自身の体調を気にしている方が多

く、バイタルサイン測定や体調の変化はないかなど問診を通して被災者の方々の体調の把握に努めました。

また、鬼怒川の堤防が崩れ、洪水した場面が夜になるとフラッシュバックすると訴える方もいて、夜間を通 して身体援助、体調管理を実施しましたが、まだまだ継続した身体的・精神的サポートが必要な状況である ことを感じました。甚大な被害をもたらした今回の災害を通して、災害支援ナースとして期待される役割の 大きさを改めて感じ、今回の経験を通して災害支援への理解を深め地域へ貢献したいと思います。

茨城西南医療センター病院

飯田 由香



『私たちにできること「心のケアの重要性」』

私は避難所災害活動に参加させていただきました。その中で最も強く感じたことは、 もちろん看護行為は必要ですが、「心のケア」がとても重要ということです。表情や言 動から不安やストレスなどの精神的苦痛がすぐに伝わってきました。私は病棟勤務で 日々患者さんと接しています。患者さんの一番近くにいるので些細な心の変化やストレ スなどを感じると、すぐに対応しています。しかし、避難所では不安を抱えたり、聴き

たいことがあっても遠慮して話せない人も多いと思います。避難された方々の状況の変化に寄り添い、話 を聴き、不安やストレスを軽減できるよう介入することが心のケアであると感じました。このような状況 でも、被災者の方からは「話せてよかった。これから頑張らないとね。」という感謝の言葉、前向きな言 葉がとても印象に残っています。

避難所が閉鎖となった今でも意欲を持って、一日も早く、その人らしい生活を取り戻してもらうために 今後も看護活動に協力していきたいと思います。

聖麗メモリアル病院

渡辺 将士

『災害看護活動に参加して』

今回、常総市の石下総合体育館で災害看護活動させていただきました。

主な活動内容は、夜間活動であり被災者健康相談票をもとに保健師チームからの申し送りを受け、夜間 保健室を設けラウンドを行いながら問診を通して、被災者の身体面や精神面についての確認を行いました。 災害医療は災害の規模や種類により活動範囲や場所などさまざまな条件で活動します。そこで、災害支 援ナースは基礎看護能力がとても重要であり、日頃より、五感(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)(看る・聴く) と看護知識や技術をフルに活用して自律的に判断して活動できるように訓練していく必要があります。

私達看護師は、いつでもどこでも適切な医療が受けられるようにすることが必要であります。そのため には日頃より災害に対する意識を高められるような災害医療に対する研修会や災害訓練の実施をする必要 があると感じます。今回の経験を今後につなげられるように努力していきたいと思います。

神栖済生会病院

實川 美智子

『避難所での活動を振り返って』

今回の災害支援活動は、2ヶ所の避難所での夜勤対応でした。1回目の活動は9/14~9/15、避難者 数 118 名の「守谷中学校体育館」で活動いたしました、災害発生後数日経っており、ある程度避難所内 は落ち着きつつある状況でしたが、避難の際に生じた軽傷の処置や、高齢の方の歩行時の見守り、血圧の チェック等を行いました。少しでも、ストレスが無く過ごせるように環境にも注意を払い、清潔が保てる よう活動いたしました。2回目の活動は、9/22~9/23、避難者数24名の「きぬふれあいセンター」で、 災害から2週間近く経ち、避難所を退所した方もおり人数的には少なかったが、災害弱者(高齢者・要介 護者)が目立ちました。今後の生活への不安が多く聞かれ、傾聴に努めました。市職員も被災者であり、 避難所内は疲弊しきっており、災害支援ナースとしての活動は肉体的にも精神的にも強い疲労を伴いまし た。何も出来ない無力感を感じても、被災者の方に感謝の言葉をかけて頂くと、災害支援ナースとしての 活動が必要とされていることを感じました。

茨城県立医療大学付属病院

関 政彦



『活動を通して感じたこと』

当院は災害支援ナース5名がJMAT茨城の一員として、関東・東北豪雨災害支援活動 に参加しました。私は、9月12日から被害の大きかった常総市周辺の避難所に夜間も 含め、3日間支援活動を行いました。

避難所には、小さな子どもから、介護が必要な高齢者、また日本語の不自由な外国人 も避難していました。被災者の皆さんは、辛うじて命が助かったことに安堵しながらも、

突然の被災による悲しみは大きく、慣れない環境への戸惑いや今後の生活に対する不安も強く感じていま した。私は、長引く避難生活が被災者にストレスを与え疲弊していく現状を目の当たりにし、できるだけ 多くの方の声を聴き、気持ちに寄り添うことを心がけました。

今回の活動を通し、長期化する避難生活での継続的な精神的支援体制の必要性を強く感じ、可能なかぎ り支援に協力をしていきたいと思いました。

鹿嶋訪問看護ステーション

畑山 緑



『災害支援に参加して ~ 訪問看護ステーション協議会の災害対策委員 会として災害対策の取り組みを考える~』

今回、茨城県看護協会の要請を受け、2名は避難所の夜間対応し、その他に2名ボラ ンティアとして参加しました。

災害当初は、茨城県看護協会会長はじめ、JMAT、リハビリ関係者等「訪問看護利用 者の中で避難所にいて困っている人はいないか。医療処置やリハビリの必要な利用者は いないか。」と支援の連絡を頂き、医療救護体制の連携ができていることを肌で感じました。

訪問看護は避難所生活支援には必要な存在であると8/29 の桜川市での総合災害訓練で体験していたの で、在宅療養者の生活支援を支える目で自然に避難所生活者の支援ができたと思います。私は、現在、茨城県 訪問看護ステーション協議会の災害対策委員会を担当しております。当協議会の災害対策委員会は平成24 年から開始し、5 ブロック(県北・県央・県南・県西・鹿行)から委員を選出し、災害マニュアルの見直し、ア ンケート調査・「訪問看護」のステッカーや「ガソリン給油のための応急車両のステッカー作成等活動して います。訪問看護ステーションは小規模のところが多く、ステーション同士の横のつながりを密にとってい くことが必要と考えます。そのためには地域でのネットワーク整備が大切と思います。

今回の災害前に委員会内でメディカルケアネットワークが連携できるシステムに参加。災害時には委員 から状況報告や災害状況等が随時確認でき、情報共有することができました。今後の課題としては、組織 内外の連携強化、ネットワークの整備、災害の防災訓練やチェックシートの活用等で防災対策を意識化し 継続的備えを行い、災害情報の意味や河川情報等災害看護教育にも目を向けて活動したいと考えます。

筑波記念病院

德瀬 千穂



『茨城県常総市の豪雨災害支援に参加して』

このたびの豪雨災害で被災された方々にお見舞い申し上げます。

看護協会からの依頼を受け2日間他院でのボランティア活動に参加しました。

私が派遣された病院では建物の浸水被害はありませんでしたが、そこに働くスタッフ が被災されており出勤できない状況となっていました。

主な活動内容は日常生活ケアでしたが、慣れない環境で仕事をする私たちにきめ細や かに指示してくれたスタッフの方に感謝しています。

今回の活動を通して被災地域の医療支援や地域医療連携の大切さについて学ぶことが出来ました。有事 の際看護協会が中心となり人員を確保してくださることは働く私達にとって大きな安心です。これからも このような活動に参加できればと思いました。

被災地の一日も早い復興を願っています。

水戸済生会総合病院

河尾 眞美

『被災者と寄り添う看護』

今回、災害支援看護師として現地に入った時、浸水している所が多く、至る所に水流による爪痕が残る 状況であった。そんな中、自分に何が出来るのか、どんな看護ニーズを持つ被災者の対応をすればよいの かと不安な気持ちが大きかった。活動内容は、医師・薬剤師・看護師等でチームを編成し、避難所を巡回 診療しながら被災者のニーズに合った看護を提供すること、避難所の環境や運営状況の把握、周辺の被災 状況の集約が主なものであった。

避難所にいる方は被災当時の不安や恐怖を抱えたまま、今後の生き方にも向き合っている。生活環境に 対する不安、持病のことや内服薬の不足に対する心配もあるが、多くの方は「話を聴いてほしい」と思っ ているのではないかと強く受け止めた。災害看護に必要なスキルは多くあるが、今回の活動で心を傾け、 寄り添っていくことの重要性を改めて感じた体験であった。

災害支援ナース等の派遣にご協力いただいた管理職の皆様の声をお届けいたします

総合病院土浦協同病院

宮本 三千代



『派遣に携わった管理者の立場から』

豪雨による災害発生は、茨城で起きている事実に誰もがショックを受けたと思います。 9月の避難所支援に続いて10月の派遣依頼があり、選出は1日で考えなければなりま せんでした。自部署では、4年目以下のスタッフが約半数以上を占めており、派遣対象 である「実務経験5年目以上」で参加可能なのは7名という状況の中、快く支援に賛同 してくれた2名と自分の3名で派遣に参加することにしました。派遣前後の病棟夜勤も

あり、少ない中での調整は大変でしたが、スタッフの協力のもと行えました。スタッフへ委譲するだけで なく自分も実際に避難所へ出向くことで、看護の姿勢など何かしら伝えられたかと思います。他病院の看 護師や MSW, ボランティアの方達や事務局の人たちと協働し活動する事で、実際の現場を知り災害看護 について学ぶ事も多くありました。また、各地から届けられた多くの物資、壁に貼られた「がんばろう」 などの紙を見て、人と人との繋がりや暖かさを感じました。今後も微力ながら少しでも支援ができたらと 思います。

県西総合病院

伊澤 清美



『災害支援ナース派遣を体験して』

9月10日鬼怒川決壊の映像に現実とは思えぬ自然災害の恐怖と、県内近隣地区で発 生している被災地の状況に心を痛めておりました。

最初に看護協会から災害支援ナース派遣要請があったのは、9月12日(土)午後、 翌日の夜間避難所支援の要請でした。災害支援ナースの登録者であった私と、副看護部 長の2名で夜間の高速道路を守谷市へと走りました。夜の体育館には127名が床にマッ

トを敷いて不自由な生活を強いられていました。担当の保健師より引き継ぎを受けた私たちは早速、高齢 者のトイレ見守り、内服薬の継続管理、医療受診の手配等行い血圧測定をしながら被災者の声を聴いて廻 りました。

突然の水害に見舞われ悲痛な思いをしている被災者に寄り添い支援出来た事、災害支援ナースとしての知 識・技術を活かせたことは大変貴重な体験でありました。今後も災害に対する危機感を持ち、災害支援ナース として自立した支援が出来る人材育成の継続及び院内連携の強化に努めたいと思います。

本間 満子



関東・東北豪雨による被災地への災害支援ナースの派遣の依頼を受けたのは、9月11 日の午前中であった。すぐに災害支援ナース登録者に連絡し、依頼先へ出向できる看護 師 2 名が確認できた。そこから、2 泊 3 日の支援のための準備、支援先のM病院へ到着 したのが、12 時すぎであったと報告を受けた。15 日からは、JMATの一員として避 難場所への支援活動に切り替わった。集合場所変更など混乱の中での支援活動であった。 当院は5名の災害支援ナースが登録されているが、今回の災害支援への要請に対して、 近隣の支援にもかかわらず、すぐに対応できない実態が明らかになった。勤務調整は、

最優先にできたが、家庭の調整に時間を要した。特に夜間の派遣に対応できる看護師確保に難しさを感じ た。今後、災害支援ナースは身軽に行動できる看護師の増員も図り、速やかに対応できるよう、組織的に 常に準備・点検しておくことを再確認した。

茨城西南医療センター病院

猪瀬 明美



『いざ、という時に結集できる看護の力』

このたびは、関東・東北豪雨災害に被災されました多くの皆様にお見舞いを申し上げ ます。

今回の災害で当院は、被災地に近く、DMATの活動拠点病院になった。被災した職 員も多くいたこともあり、被災地に個人でボランティア活動をしたり、看護主幹会が自 主的にボランティアで参加したりと早々から被災地に入って活動をしていました。 看護

協会から派遣依頼のFAXが入ったのが9月30日で、翌日からの活動依頼という事で、時間的な焦りを 感じましたが、災害支援ナースに登録していない看護師も協力できると知り、院長はじめ、事務長、看護 部長にボランティアを募っていいかを申し出て「是非協力してほしい」とすぐに許可を頂けました。急遽 の募集にもかかわらず依頼して4時間で14名の看護師が「行かせてください」と積極的に参加を申し出

て活動してくれました。誰もが、地域の中で最大限の役割を果たそうという意気込みで、調整を図り看護 師を送り出すことが出来たことは、今後に繋がる貴重な経験となりました。

神栖済生会病院

高尾 弘子



『初めての災害支援ナースを派遣して』

神栖市は東日本大震災で被害を受けました。3月11日の病院は高台にある為、避難 する方であふれていた。後日被災者の避難所への訪問、診察が行われたが、災害支援ナー スは活躍する場がありませんでした。今回の茨城県常総市の災害に、災害支援要請が来 た際には、是非ともスタッフを派遣できればと思っていました。9月12日から災害支 援ナースが派遣され、当院に依頼されたのは翌日の13日の日曜日であり、急な為調整

には時間がかかりました。災害支援ナースを派遣するのは初めてであり、病院の許可、勤務調整、災害支 援ナースの希望を踏まえ早急に判断しなければなりませんでした。様々な問題をクリアし病棟スタッフの 協力を得ることができ、9月14日~15日、9月22日~23日の夜勤業務支援に2名を参加させる事が 出来ました。本人達の役に立ちたいという思い、災害支援ナースが同じ病棟にいた事等、勤務調整は厳し かったがスタッフの思いを繋げられた事、満足できたことに達成感を感じました。

アイビークリニック

廣木 とよ子

『災害支援看護師活動派遣に携わった看護管理者として~支援の力は支え合い~』

当施設では4名の災害支援看護師を看護協会に登録しています。今回、避難所支援という初めての拝命 に、看護協会災害本部の暖かいサポートと現地の受け入れ体制により、大きな学びを得、無事終了するこ とができました。「寄り添うことは、結果として自分が支えて貰っている」を体感した活動報告から、避 難所の管理者様を中心とした関わりのお陰で、未熟ながらも力量を発揮できたと覗えます。また、その背 景に、病棟看護師長からの勤務交替命令に快く応じ、「ここは私達が護る」と、臨場の現状維持に尽力し てくれた後輩達の存在もありました。これらに尊重と感謝の意を添え、当災害支援看護師の今後の活躍に 期待すると共に、日頃よりジョブ・シェアリングも含めた円滑な業務・支援体制に力を入れ、非常時に備 えて参りたいと思います。

被災地域の一日も早い復興を祈念し、災害発生当初より尽力された多方面における支援者方の活動に深 く感謝致します。

聖麗メモリアル病院

服部 とみ子

『災害支援を通して考えること』

茨城県看護協会から災害支援ナース派遣要請がありました。東日本大震災を経験した経緯から、鬼怒川 決壊により甚大な水災被害、被災された方に少しでもお力になればと思い看護職員3名を派遣しました。 石下総合体育館は約166名の方が避難されており、夕方17時~翌朝9時まで、2人1組で行う夜勤業 務を担当しバイタル測定、傾聴、夜間の見守り等行いました。被災された方々の抱える不安や体調不良、 健康に関する事、衣食住、食事(炊き出し)など、限られたスペースでの生活から身体面の負担の大きさ、 困難な現状を把握することができました。避難所での生活は心身に負担がかかり体調を崩したり、服薬が 中断したりと様々なことが考えられます。災害はいつ発生するかわかりません。改めて災害支援ナースの 役割、地域での支援体制と情報共有の重要性および院内の体制作りを考えさせられました。被災された方々 の1日も早い復興を願います。

水戸済生会総合病院

樫谷 厚子

『災害支援ナースを派遣する』

平成 27 年 9 月の関東・東北地方の豪雨によって、常総市の鬼怒川が決壊した。その様子をテレビ報道 で目にし、「これは大きな災害になる。支援に行かなければならない。」と直感した。災害発生から2日 間は DMAT が被災者の救出に向けて活動した。しかし水の中での業務遂行は困難との判断で、3 日後か らは医師・薬剤師等と共に医療看護を行う JMAT の活動にシフトした。当院からも 4 名の災害支援ナー スが8日間にわたってJMATの一員になり災害看護を実践した。県内での災害発生であるため派遣は必 須と考え、看護師長に勤務及び業務調整を求めた。看護スタッフにも理解と協力を求め、災害支援ナー スを積極的に派遣する準備を整えた。私も"助産師として避難所の母子支援をする"との衝動にかられ、 JMATに加わり避難所に赴いた。災害支援ナースと共に看護活動をして、「JMAT はチーム医療であるが、 看護師がコーディネーターとして被災者への適切な援助を選択している。」ということを強く感じた。看 護の力を十分に発揮している看護師たちは頼もしく輝いていた。

平成27年度実習指導者講習会

前期日程:平成27年8月18日~9月14日 後期日程:平成27年10月13日~11月13日 会 場:看護研修センター 受講生:101名



閉講式に合わせて取材を行い、受講生にインタビューした内容の一部ではありますが、お伝え します。

- 受講の動機 -

- ・上司の勧めで受講した。
- ・実習指導者として学生に関わってきた中で、悩みや、学びを深めたいという思いがあり受 講した。
- ・指導経験はないが、以前から実習指導に興味を持っており、学生とのかかわりの中から自 らも成長したいと思い受講した。
- ・指導の中で、自分の思いが伝わらないことが多々あり、戸惑いがあった。研修を通し、効 果的な指導を行いたいと思い受講した。

-学んだこと-

- ・グループワークで看護観をあらためて考える機会となった。
- ・他者評価の前に自己評価をすることができた。
- ・自分の意見を他者に伝え、学びを深めることができた。
- ・自分とは違う意見を聞き自分の看護観を見直し、深めることができた。
- ・学生のレディネスを確認し、三観をしっかりと考えたうえ、学生を受け入れる、きめ細か な準備が必要だと学んだ。
- ・カンファレンスで情報共有し学びを深められるよう、ファシリテーターの役割を担うなど、 様々な要素が含まれていることを学んだ。
- ・受け入れる学校の理念や目標から実習で何を学ばせたいのかを読み取り、学生の特徴・個 別性を考え、指導していくことが大切と学んだ。
- ・自分の考えを文章化することの難しさを知り、表現方法を学べた。



今後どう役立てるかる

- ・よきロールモデルとなり、専門職業人として学生を育成できる資質を磨いていきたい。
- ・他のスタッフにも実習指導のポイントを伝える目的で、伝達講習を行っていきたい。
- ・現代の学生の特徴を捉えることができたので、その学びから、学生が学びやすい環境を作っ ていきたいと思いました。
- ・本研修での学びを活かして、学生との意図的な関わりを行い、より多くの成功体験に結び 付けていけるよう努めたい。
- ・研修で学んだことを基盤とし、学校の特色を理解しながら、指導に活かしていきたい。

-評価者より-

- ・「どのように学生を育てていきたいか」三観を 統合させ、「日案」「週案」におとせていました。
- ・目的・目標が具体的にあげられ、看護場面を 学生と共有していました。成功体験を抱かせ てあげるには、学生を成功させることです。 今日の学んだことを実践に活かしてくださ ll.
- ・「三観」の重要性を抑えつつ指導案をあげら れていた、指導者の意図を「発問」「目標」 に活かせていた。



-聴講者より-

- ・学生にどのような実習を意図的に関わるのかが指導案に挙げられていました。
- ・スライドや発表形態は各グループに創意工夫されていました。



閉講式-

相川三保子会長より「看護の「楽しさ」「喜び」を 伝えられる指導者になってほしい。研修を通して大 きなネットワークができたので、立ち止まった時に は、仲間を頼りに前進してください。」と今後にむ けてお言葉がありました。

取材者:黒澤・髙橋

平成27年度実習指導者講習会(特定分野)

日 程:平成27年8月3日~8月11日 会場:看護研修センター

受講生:27名(保健師2名・助産師4名・看護師21名)

この特定分野の実習指導者講習会は、看護協会として今回が初めての企画であった。病院以外 での実習施設を対象とし、39時間という短期間での講習会であった。「短期間の講習であるため、 これまで時間がとれずに研修に参加ができなかったが、今回参加でき、有意義な7日間であった。」 と受講生の声があった。受講生の勤務先は、訪問看護・介護施設・特別養護老人ホーム・健診センター・ 産婦人科医院など様々であり、年齢も 25 歳から 50 歳代と幅広い年齢層の看護職が参加した。

目的

病院以外の実習施設で次にあげる特定分野について実習指導者の任にある者又は、将来にこれ らの施設で実習指導者となる予定の者が、実習の意義および実習指導者としての役割を理解する とともに、特定分野の実習における効果的な指導のために必要な知識・技術を習得することを目 的とする。

<特定分野>

- ・保健師養成所における公衆衛生看護学
- ・助産師養成所における助産学
- ・看護師養成所における老年看護学、小児看護学、母性看護学及び在宅看護論
- ・准看護師養成所における老年看護及び母子看護

受講の動機

- *老健施設で実習生(看護・介護・歯科衛生士・特別支援)を受け入れているため、指導者と してのスキルアップの必要性を感じたので受講した。
- * 県内で特定分野の実習指導者講習会があると知り、ぜひ学びたい! と受講した。

参加してどうだったか

- *演習を通じて、講義の点と点が結び付いた。
- *自分本位であった学生の見方が変わった。
- *学生を支援する立場であることを再認識した。
- *気付いてほしいことを意図的に投げかけ、学生と共に成長する姿勢が大切だと思った。
- *研修生同志で親睦が深められ、他施設との情報交換が出来てよかった。
- *教育に関する講義時間がもう少し欲しかった。

今後どう役立てるか

- *幅広い多職種の学生に、効果的に関わりたい。
- *実習の目的・目標を意識して関わりたい。
- *実習の目的・目標を自分たちが知って関わることの必要性を痛感した。
- *学生に多くのことを求めすぎていたことがわかった。
- *学習者が主体であり、支援することを忘れずに関わりたい。
- *実習指導担当者として、スタッフに対して実習生との関わり方を指導したい。

指導者(助言者) 荒川和美先生 山口幸恵先生

学生が看護現象から学べる機会を指導者が作り出すことと、 自分がやっていることを語れること(根拠・意義)が、看護観 につながる。

閉講式

大槻常任理事より「今回の学びをそれぞれの場所で学生と 関わり、学生指導、後輩指導に活かしていただき、指導者と して大きく成長してほしい。そして、27名のネットワークを大 切に、それぞれの職場の向上を図ってほしい。」と激励された。



取材者:宮本・濵野

平成27年度看護管理者等研修

日程:平成27年11月11日(水) 会場:水戸プラザホテル 参加者:115名

看護管理者等研修は、看護管理者及び事務・人事管理者に対し、看護職員の労務管理及び職場 環境の改善等、先行事例を活用した研修を実施することにより、各管理者の管理能力を高め、看 護職員の人材確保・定着促進を図ることを目的に6回シリーズで開催されています。今回、第2

回目の講演会を取材いたしました。

内容は

「地域包括ケア病棟(病床)の運用について」

- · 牛久愛和総合病院
- ・古河赤十字病院
- ・県北医療センター高萩協同病院

の3施設の導入までの経緯と導入から運用までの 取り組みについての現状や今後に向けた課題の報 告がありました。



講演は「地域包括的視点に基づく看護管理者の 役割」というテーマを掲げ、聖路加国際大学 看 護管理学教授 吉田 千文氏を講師に迎え、日本 の保健医療を取り巻く社会状況と地域包括ケアに おける看護師及び看護管理者の役割についてお話 しいただきました。「地域で看護することとは、専 門職の判断で決めた目標に向けて、人々をコント ロールすることではなく、元来、自己と他者を気 遣う力を有するすべての人々とケア力が存在する 地域の力を信頼し、その力が様々な状況で発揮さ れるよう、人々を力づけ、ともに学習し続けること。 そして、気付いた人から始めることであり、看護 師の担う役割である。」と述べられました。

参加者の声

- ・運用についての実際を聴くことができ、運営のポイントを学ぶことができました。少子高 齢化の社会状況から、医療の提供のみならず予防・リハビリ・福祉・介護を包括的に地域 の自助力・互助力を育てることを目的とした、地域包括ケア機能の重要性を再認識し、今 後の病床運営において専門職として、また、管理者として活かしていける事のできる内容 でした。
- ・3 施設の実践を聴くことができ、より具体的な内容での学びとなりました。
- ・病院の支援・地域の支援を考えていく、病気を持って生きていくことの支援を考えていく ことがこれからのケアなのだと思いました。地域で支えていくうえで「人・モノ・金」が 不足していると感じました。
- ・QOL の基準はその人がもっていると常に念頭に置き、患者様のセルフケア力を生かす看 護力を高めることが今後の課題であると感じました。

取材者:宮本・濵野

平成27年度地区意見交換会報告

11月19日の土浦、つくば、取手・竜ヶ崎地区を初日に12月1日まで4地区におきまして地 区意見交換会が開催されました。

今年度の地区意見交換会は、93施設194名の看護職が参加されました。交換会は、地区理事 の進行により、相川会長より挨拶、続いて各担当理事より検討事項として(1)看護師の届出制度 について (2) 会員増の取り組みについて (3) 新会員情報管理体制について、また情報提供として(1) 特定行為研修制度について(2)地域包括ケアについて説明し、その後意見交換に移りました。

意見交換会では、地区の抱える課題等に焦点を絞り、会員同士が情報共有し、活発な討論が行 われました。協会では、各地区からのご意見等を真摯に受け止め、できる限り会員の皆様のご意 見ご要望に応えられるよう効率的な事業運営に努めてまいります。

主なご意見。ご要望等

研修について

- ・研修の中止や延期について早急な緊急連絡を希望
- ・詳細案内やトピックス研修等の早めのお知らせを希望
- ・実習指導者講習会の参加人数の増員や開催回数の追加を希望
- ・需要のある研修の定員増員や開催回数の追加を希望
- ・研修受講修了証や証明書の発行を希望
- ・駐車場の確保を希望
- ・訪問看護に医療依存度の高い利用者が増加 ニーズに合った研修企画の希望
- ・看護必要度評価者院内指導者研修の県内での実施を希望
- ・BLS研修の県北での開催を希望
- ・チーム医療、継続看護、せん妄、高次脳機能障害、認知症(地域の体制、医学面を含む)の研 修会を希望
- ・准看護師研修を増やして欲しい(土曜日の午後や日曜日)
- ・介護職に向けての研修開催の希望(高齢者への衛生、口腔ケア等の出前講座など)
- ・指導者以上の研修後フォローアップの定期的な開催を希望
- ・中堅看護師(准看護師)の再教育研修の企画を希望
- ・内容がマンネリ化している、さらに充実させて欲しい
- ・研修センター以外での開催の検討を希望(遠方のため研修会場の検討)
- ・診療報酬改定時の分かりやすい研修の開催を希望
- ・助産師教育に関する研修会を希望
- ・継続性やステップアップできる研修増を希望
- ・研修時間内の保育施設を希望
- ・研修時の昼食提供を希望

災害支援ナースの派遣体制に関する課題について(システム化、精神面のケアなど)

- ○職場環境について(人材不足・夜勤体制・ロング日勤の問題等)
- ○看護職の業務負担増と技術支援について
- ○難病患者への支援、精神科への支援について
- ○患者・家族の高齢化と後方ベッドの確保について
- ○看護師等の届け出制度の実施状況および今後の見込みについて
- ○認定看護師の講師について、新たに資格取得した人の活躍の場を提供していただきたい
- ○看護管理者研修の開催曜日の変更希望
- ○人員不足への支援、各地区にナースセンター支部の設置を希望
- ○看護補助者の確保について情報提供や教育の協力を希望
- ○助産師養成枠の拡大を希望
- ○県内の地域ごとに看護部の交流会を開催して欲しい
- ○管理職に対しての研修会および交流会の機会を増やして欲しい
- ○母性実習における男子学生の実習の必要性の検討を希望
- ○保育園以外でも子供を預けられるシステムの構築を希望



【参加者の感想】

- *顔の見える関係が重要であることを再認識した。
- *活発な意見交換ができてよかった。
- * 各地区の交換会が活発になってほしい。

取材者

- ・水戸地区、日立地区、 常陸太田・ひたちなか地区 宮本・濵野
- ・鹿行地区 今喜多

平成28年度 新規入会の皆様にお知らせいたします。

・入会金 12,000 円 (茨城県看護協会へ初めて入会する方のみ入会費が必要です)

· 会 10,000 円(内訳)日本看護協会会費 費 5,000 円 茨城県看護協会会費 5,000 円

(1)銀行振込の場合

振込先:常陽銀行 下市支店 普通預金

口座番号:9010548

口座名:公益社団法人茨城県看護協会 会長 相川 三保子

(2)郵便振替の場合

口座番号:00170-6-86230

口座名:公益社団法人茨城県看護協会

平成 28 年度新入会員の入会金は、入会申込時に年会費と併せて 納入いただくことになります。

送金と同時に、次の書類を当協会宛にお送りください。

平成 28 年度施設会員内訳票・入会金内訳票 平成 28 年度「入会申込書及び継続申請書」

* 改めて領収証は発行しませんので、払込時の「振込金受取書」又は「郵便振替払 込請求書兼受領証」を保管願います。



年度内に転居や改姓等により登録内容に変更が生じた場合には、所属の都道府県看護協 会へ必ずお知らせください。

看護師職能委員会

メンバー紹介 ー

委員長: 白岩 秀子

委員: 海野千惠子・山田由岐子・生田目 操・増渕 愛子・海老澤佳代・川面美恵子

看護協会の会員の皆様方には日頃よりご協力いただきましてありがとうございます。

看護師職能委員会 の今年度の活動をご紹介いたします。

活動内容

看護師職能委員会は、平成24年度より医療機関で働く看護師を対象とした看護師職能委員会 と介護福祉関係施設・在宅等で働く看護師を対象とした看護師職能委員会 に分かれ活動してい ます。

看護師職能委員会 (以後委員会)は7名で構成され、それぞれが介護老人保健施設、特別養 護老人ホーム、訪問看護ステーションに勤務しながら委員会に参加し、超高齢社会の現状の中で 地域の人々が安全で、安心して暮らしていける環境の構築に取り組んでいます。また、委員会と して現場の状況の情報交換や問題点・課題等話し合いながら少しでも役立つ研修会や講演会を企 画、実施しています。

4年前に日本看護協会(看護師職能委員会)より「介護施設における看護職のための系統的 な研修プログラム」が提示され茨城県の課題と照らし合わせながら検討した結果、これからも増 加する可能性がある「看取り」に着目し研修を実施して4年目になりました。受講定員100名の ところ常に100名以上の希望者があり関心の高さがうかがえます。

テーマとして「その人らしい看取りケアとは~看護職・介護職の役割 家族の役割~」の講演 やグループワーク、実技など行い、受講者の方々にはエンゼルケア・グリーフケアにおいて、患者・ 家族の尊厳を保つ等これから「看取り」を立ち上げていく上で非常に参考になりましたとのご意 見を頂いております。

また、茨城県から看護協会が委託を受けている「茨城県高齢者権利擁護推進研修 看護実務者 研修」について当委員会で企画・運営を行っています。

今年度も 96 名の方に受講していただき 2 日間のプログラムを終了 いたしました。施設で働く看護職が対象で研修内容としては、

介護保険制度と看護職員の役割

高齢者の心身の理解

尊厳のある生活を支えるケアと看護(感染対策・急変時の対応)

認知症高齢者の理解と看護

摂食・嚥下障害のある高齢者ケア、認知症高齢者の「食」を支える等の講演や実演を実施いた しました。

受講生からは「他施設の現状や取り組みを知ることで自施設を振り返り課題を見出すことが出 来た」とのご意見を頂いております。



さらに、今年度は看護師職能委員会 との合同研修として「病院看護 と施設・在宅看護の連携」を開催し、シンポジウムでは介護支援専門員・ 訪問看護師・退院調整支援看護師・介護老人保健施設の方々から発表が あり、グループワークではお互いの立場の理解と情報共有が出来たこと は合同研修の成果と感じます。

介護保険制度成立後 15 年が経過しましたが、高齢者への支援、認知症 への対策など重要な課題が山積です。これからも施設・在宅等で活動する看護職同士が交流を通し、 看護の質の向上を目指し、更に医療機関や地域の専門職と連携を図ることで 1 人の療養者の生活 を切れ目なくつなげ、安心して過ごせるまちづくりと、その人らしく安らかな最期が迎えられる よう、来年度も皆様に感動していただけるような研修会を考えていきたいと思います。

教育委員会

メンバー紹介 -

委員長: 関根 洋子

委員: 冨田 知美・松﨑 啓子・飯沼 真弓・兜森 由紀・関山ひろみ

加治 直美・深澤千映子・菅原 升子・大久保恵美子

委員長あいさつ 関根 洋子

教育委員会は 10 名の委員で活動しています。現場で働く看護職の皆様のご意見を集約して、よ リタイムリーな研修を企画・運営していくことが重要な役割です。現在、我が国はこれから超高 齢社会を迎えるにあたり、国の動向を見据え、より実践スキルに対応できる様々な能力や、多様 な分野に対応できる看護師の育成が求められています。そこで、現場の看護職の方々が遣り甲斐 を持って看護を実践できる環境を整備していく上で、研修の充実は不可欠と考えています。

今後も現場の皆様の声に耳を傾け、教育委員会として「看護の質の向上」を目的とし、地域社 会に貢献できる看護職の育成を目指し活動していきたいと思っています。

1 活動目標

- 1) 看護職の専門領域の知識や技術を深め、質の向上を目指した研修を企画・運営する
- 2) 研修企画・運営上の課題を抽出し、問題解決図る
- 3) 研修企画・運営のための知識・技術を学び、教育担当者としての資質を高め役割を果たす
- 2 委員会予定 6回開催
- 3 内容
 - 1)27 年度継続教育研修の実施・評価
 - 2)28年度教育研修の企画
 - 3) 茨城県看護研究学会への協力

ブラッシュアップ研修

6月に企画された認知症患者の理解と看護は、定員80名に対し、186名の参加となり、研修 会場を変更し開催しました。講師は茨城県立中央病院の認定看護師・門脇知巳先生と門脇陽子先 生にお願いしました。研修後のアンケート結果から、目的達成度は96%を占め、この研修を今後 に活かしていきたい・皆で取り組んで行きたいなど認知症に対する理解度が向上したと言えます。 今後、益々高齢化の波が進む中でタイムリーな研修を企画することが、看護の質向上に繋がると 考えております。今後もご協力をお願い致します。

関東・東北豪雨災害被災地に対する義援金の贈呈について



相川会長から常総市長へ目録を 贈呈いたしました。 平成 28 年 1 月 12 日

平成27年9月に発生いたしました「関東・東北 豪雨」により甚大な被害を受けました以下の市町に 対して、皆様からお預かりした「愛の募金」を義援 金として贈呈いたしました。

一日も早い復旧と皆様のご健康を心よりお祈り申 し上げます。

贈呈先

常総市	1,000,000円	境町	500,000円
結城市	300,000 円	下妻市	300,000 円
筑西市	200,000 円	坂東市	200,000 円

平成28年度改選役員、推薦委員及び平成29年度日本 看護協会代議員・予備代議員への立候補について

選挙管理委員長

平成 28 年 6 月 24 日(金)に開催される通常総会(会場:県立県民文化センター)で、平成 28 年度改選役員、推薦委員及び平成29年度日本看護協会代議員・予備代議員選挙を執行しますので、「立 候補」と「推薦」についてお知らせいたします。

改選役員と役職数

- 1 役員 9人(任期2年) 監事 1人(任期4年 会計制度に精通した者) 副会長候補者1人、専務理事候補者1人、常任理事候補者1人、助産師職能担当理事候補 者1人、看護師職能担当理事候補者1人、地区担当理事4人(水戸、日立、鹿行、取手・竜ヶ 崎) 監事1人
- 推薦委員9人 (任期1年)
- 3 平成29年度日本看護協会代議員7人、予備代議員7人(平成29年4月1日から1年間) 受付の方法

立候補される方は、本会会員5人以上の推薦を受けて、立候補届出書及び立候補推薦届を選挙管 理委員長あてに届け出て下さい。

立候補届出用紙等は、本会ホームページからダウンロードするか、茨城県看護協会事務局に申 し出て下さい。 029-221-6900

宛先 〒310-0034 水戸市緑町3-5-35 公益社団法人茨城県看護協会 選挙管理委員長(親展)あて 受付期間 平成 28 年 2 月 1 日 (月)~2月 15 日 (月)必着 郵送の場合は当日消印有効

理事会報告 平成27年度

10月30日(金)

協議事項

- 重点事業に関する報告 承認
- 2 職能委員会に関する報告 承認
- 3 地区活動に関する報告 承認
- 平成27年度看護介護連携体制構築・人材育成支援 事業について
- 予算執行状況について 承認

報告事項

- 1 平成27年度日本看護協会第4回理事会・法人会員
- 2 平成27年度日本看護協会地区別法人会員会・職能 委員長会報告
- 医療安全推進会議報告
- 平成27年9月関東・東北豪雨災害による災害支援 ナース等派遣報告
- 平成27年度地区意見交換会について
- いばらき看護の祭典実行委員会について
- 第46回日本看護学会 在宅看護 学術集会報告

第6回理事会

協議事項

1 平成28年度重点政策・重点事業(案)について 承認

- 2 諸規程の制定・改正(案)について 承認 特定個人情報保護規程の制定 ハラスメント防止等規程の制定 認定看護管理者教育課程細則の改正
- 3 平成27年度上期監査の結果について 承認
- 平成28年度見込会員数(案)について 承認
- 平成28年度日本看護協会長表彰候補者の推薦につ いて 承認
- 平成28年度日本看護協会名誉会員候補者の推薦に ついて 承認
- 愛の募金の使途について 会長一任で承認

- 平成27年度日本看護協会第5回理事会・法人会員
- 平成27年度日本看護学会運営会議報告
- 3 平成27年度地区意見交換会報告
- 平成28年新年の集いについて
- 平成28年度茨城県優良看護職員表彰について
- 第52回いばらき看護の祭典第1回実行委員会報告
- 7 災害支援ナース等活動報告会について
- 平成27年9月関東・東北豪雨被害による公益社団法 人日本看護協会災害見舞金申請について
- 9 平成28年度会議等行事日程





新年、あけましておめでとうございます。今年は申年。申は好奇心旺盛 で多くのものに興味を持ちます。

皆さんも申年にちなんで、好奇心を持って、新たなことをチャレンジしてみてはいかがでしょうか?

広報委員一同